

# 編集 後記

●この10年ほどは立場上、医療界の様々な制度の変遷に翻弄されています。以前は変化速度がもう少し緩やかだったように思いますがどうでしょうか（自分が関与することがないため気づかなかっただけ?）。研修制度が変わり、DPCが始まり、電子カルテが導入され、労働環境が変わり……そして今度は専門医制度です。フォローするだけでエネルギーを費やしている自分の旧人類ぶりが残念です。（河原由恵）

●ポール・マッカートニー日本公演に行って来ました。昨年の中止で残念な思いをただけに感激も倍増です。特に武道館はビートルズ時代からおよそ半世紀の舞台です。アリーナで間近で夢のような時間を楽しめました。只、憧れのロックヒーロー達もかなりのご年配です。いつまで現役でいてくれるか？ これからもチャンスは逃さずに足を運びたいと思っています。（天野隆文）

●娘が大学生になり三重県で一人暮らしを始めました。今まで料理も家事もほとんどしたことはありませんでしたが、何とかがんばっている様子。つい先日、電子レンジでつくる料理に初チャレンジしたらお皿ごととけちゃった……と、涙の絵文字とともに訳のわからぬ写真がLINEで送られてきました。お皿は100均のプラスチック製で十分！ と言い張っていましたが思いを改めたようです。日々勉強ですね。（高橋さなみ）

●クリニックも開院5年目を迎え、とうとう今年はやめるスタッフが出そうです。結婚、出産等のめでたいこととはいえ、開院以来支えてくれたスタッフを失うのは寂しいです。幸せになってね！ 心の準備をして、最後の日には、笑顔で送り出さなきゃと思うこの頃です。（掛水夏恵）

●一昨年の「神皮」に、ペットの3頭の犬の記事を掲載させていただきましたが、掲載直後に最年長のバブが急死してしまいました。昨年3月にオーストラリアン・ラブラドルの女の子を家族に迎え入れたので、記事にしようと思った矢先に、今度は最年長のブリジットに末期肝臓がんが見つかりました。そんな訳で今回は執筆をみあわせましたが、近いうちにわんこの記事を執筆したいと思っています。（小島雅彦）

●昨年10月に、我が家に新しい家族が増えました。岸和田生まれのトイプードルの“める”です。妻がネットで見て一目惚れした“める”は、偶然にも妻の亡き父と誕生日が同じでした。わずか2kgしかない怖いもの知らずの好奇心旺盛な次女に、家族全員メロメロです。娘や息子の帰宅時間が少し早くなり、笑顔とともに家族が集まる時間も増えました。（相川洋介）

●5月に入り暖かくなり、4代目のカブトムシがさなぎになりました。40匹いる幼虫はケースの中では飽和状態で、一部の幼虫が土の中から出てきてしまいました。深さのないケースの土から出てくる幼虫からは、「さなぎになれないよう」と聞こえてくるようでした。出てきた幼虫をトイレトペーパーの芯に入れて人工の土まゆを作成したところ、無事さなぎになりました。早く成虫になるのが待ち遠しい今日この頃です。（加藤正幸）

●編集会議で、十数年ぶりにかまくら春秋社の田中愛子さんにお会いして、以前、鎌倉で西山茂夫先生、原紀道先生、塩谷千賀子先生と「皮膚の手帳」という患者さん向け小冊子を編集していた時のことを懐かしく思い出しました。つい昨日のことのようなのに、歳月はあっという間に過ぎてしまいました。原先生、塩谷先生のお優しい笑顔は、今も私の心に残っています。またかまくら春秋社さんとのご縁があって嬉しいです。（馬場直子）

## ■表紙のことは 「馬車道ガス灯」

神奈川県皮膚科医会の例会が行われる関内新井ビルから、3筋北西側の一方通行の通りが馬車道です。1859（安政6）年、横浜開港後、吉田橋の関門から波止場に至る道路として開通し、居留地の外国人たちはこの道を馬車で往来したためその名が付きしました。

1872（明治5）年に日本で初めてこの通りにガス灯が灯りました。これを記念して現在も多くのガス灯が設置され、夜になると火が灯ります。緑色の鉄枠にガラスをはめ込んだ逆四角錐型が基本型ですが、逆円錐型（英国トラファルガー広場のガス灯）、鉄枠のなかにガラスの球をはめ込んだタイプ（英国国会議事堂のガス灯）や、写真のようなガラス球のみのタイプ（英国ビクトリア・タワーのガス灯）があります。

写真の奥に見える神奈川県立歴史博物館の緑色のドームと手前の火の入ったガス灯が異国情緒を感じさせ、歴史ある街の雰囲気醸し出しています。（山田裕道）

## 神皮 〈第22号〉

2015年7月5日発行

発行 神奈川県皮膚科医会

発行人 鎌田英明

〒235-0016 横浜市磯子区磯子6-38-18

電話 045-753-0445

制作 かまくら春秋社